

---

令和2年

# 7月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

### 新たなブランドづくり

#### 郡上農林 ■ スマート農業 夏だいこんでスマート農業実証スタート

新型コロナ関連の緊急経済対策として、郡上市の「ひるがの高原だいこん」を対象に、労働力不足の解消に向けたスマート農業実証がスタートした。

実証では外国人技能実習生の入国が困難となり不足する労働力を、ロボットトラクタ活用などスマート農業技術により補うことで、地域での新たな雇用導入や作業体系のモデル化を目指す。30日に参画機関による推進会議を行うとともに、リモコン草刈機及びアシストスーツの実演会を開催した。地域の農家から高い関心が寄せられていることが明らかとなった。

農業普及課は、進行管理役としてスマート農業技術の実証を進めるとともに、得られた成果の普及に取り組む。



【急傾斜でも作業可能な  
リモコン草刈機】

#### 東濃農林 ■ アスパラガス 土壌水分環境改善実証ほの設置

東濃地域では平成29年にアスパラガス研究会を設立し、関係機関で連携して産地づくりに取り組んでいる。

近年、夏期の高温および灌水不足に起因すると思われる、収穫量の減少が課題となっている。農業普及課では土壌水分環境の把握および改善による萌芽促進効果について検証するため、6月下旬に実証ほを設置した。

現在、土壌温度、土壌水分、収量、灌水実施状況等を調査および生産者と情報共有を行っており、アスパラガスの安定生産に向けた支援を行っていく。



【pFメーター設置実証ほ】

### 多様な担い手づくり

#### 揖斐農林 ■ かき 柿帰農塾のフォローアップ研修

7月4日にJAいび川主催の柿帰農塾のフォローアップ研修が実施され、開催支援した。帰農塾の過去の受講生を対象に、柿の栽培管理で日頃疑問に思っていることの課題解決の場として、臨時の研修会を設定した。

12名の塾生の参加があり、農業普及課からは「効果の上がる病害虫防除について」と題して研修を行った。また、大野町かき振興会役員が講師となり、柿の枝を使用し摘果の実演を行った。

塾生は熱心に受講し、様々な質問が寄せられるなど盛況であったため、今後の開催についても検討していく。



【研修会の様子】

#### 下呂農林 ■ 農福連携 新規トマト生産者と障がい者とのマッチング推進

下呂市では、市外から移住してトマト栽培に取り組む新規就農者が増加している。地元出身の生産者と比較し、雇用者の確保が難しく、夏季の農繁期を中心に慢性的な労働力不足が課題となっており、就農計画の目標達成の妨げとなっている。

このような中、農業普及課ではミニトマトと菌床しいたけに取り組む市内のA型福祉事業所から、農地に関する相談を受けた。これを契機に、労働力不足に悩む新規トマト生産者と障がい者との雇用のマッチングを開始した。



【障がい者の作業の様子】

5月から始めたこの取り組みは、これまでに延べ29回、87名の派遣が実現した。（事業所の指導者を含む）今後も、トマトの収穫・栽培管理作業が集中する9月まで、1週間あたり2～3回の派遣が計画されている。

農業普及課では、農業者と福祉関係者との連携強化に向け、相互間の作業調整や必要な助言等を積極的に行い、農福連携の取り組みを推進する。

### 革新支援センター■普及職員研修 **基礎技術習得研修「第2～4回」を実施**

7月6日～8日、普及経験1年目となる職員6名を対象に、基礎技術習得研修を実施した。

今回は、農業革新支援専門員が各専門分野の内容「農業経営、作物、野菜、果樹、花き、畜産、男女共同参画、土壌、病害虫」について講義を行った。特に、土壌および病害虫については、1年目であっても現地巡回時に農業者から質問を受けることが多いため、今年度から時間と内容を拡充し、演習を加えて実践的な内容とした。

研修後の受講者アンケートでは、「県内農業の全体像と土壌・病害虫について学ぶことができ良かった。特に土壌や病害虫は、生産者と話すきっかけになるので、学んだことを生かしていきたい。」等とあり、満足度の高い内容で実施することができた。



【土壌分析演習】

### 売れるブランドづくり

#### 岐阜農林■スマート農業 **スマート農業実証コンソーシアム会議を開催**

7月17日、J A ぎふ巣南支店にて、超低コスト輸出用米スマート農業実証コンソーシアム会議が開催された。この会議は「国のスマート農業加速化実証プロジェクト」を進めている（農）巣南営農組合、コンソーシアムを構成する関係機関、農機メーカーなどが一堂に会し、事業最終年度である今年度の事業計画や進捗状況について協議した。農業普及課からは、スマート農業機械の実証結果や今後の実証計画などを報告した。

今後も、本プロジェクトにおいて各種調査や検証を行い、スマート農業技術の地域への定着・普及に取り組んでいく。



【コンソーシアム会議】

#### 西濃農林■茶 **「岐阜県GAP確認制度」農場審査**

「岐阜県GAP確認制度」は、農林水産省のガイドラインに従い岐阜県が策定した制度である。西濃管内には11件取得があり、農林事務所の農業普及課職員が「岐阜県GAP指導員」として、認証取得の支援、農場審査に対応している。

7月1、3、8日の3日間、不帰茶生産組合（垂井町）が取得している「岐阜県GAP確認制度」の認証維持に必要な農場審査を行った。この日は、不帰茶生産組合事務局と生産者7名が対応し、必要書類の整備状況やその内容を確認した後、茶園の管理状況について説明を受けた。必要書類は個別ファイルに綴られるなど適正に整理されていた。夫婦で対応された生産者もあり、GAPの取り組みが生産者に浸透している状況が伺えた。



【農場審査の様子】

### 中濃農林 ■スマート農業 **ドローンによる農薬散布の作業性調査**

関市武芸川町の農業法人では、病虫害防除作業の省力化とコスト削減のため、薬剤散布用のドローンを平成29年度に導入した。7月中旬から9月中旬にかけて水稲病虫害の防除に活用している。

農業普及課では、ドローンの作業効率や防除効果を調査するため、飛行速度や感水紙による薬剤飛散状況等の測定を行った。その結果、単位面積当たりの薬剤散布時間や、薬液の均一散布が可能であることが明らかとなった。

農業普及課では、スマート農業技術を導入する稲作経営者に対して、引き続き情報提供及び技術支援を行っていく。



【飛行速度測定の様子】

### 可茂農林 ■堂上蜂屋柿 **美濃加茂市堂上蜂屋柿産地振興プロジェクト推進委員会設立**

美濃加茂市の特産品である堂上蜂屋柿は、鎌倉時代からの歴史を持ち、平成29年度に地理的表示(GI)に登録されたブランド干し柿である。しかしながら、高齢化の進展・後継者不足等により、今後の生産量の減少が懸念されている。

そこで、産地の維持・発展を目的とした「美濃加茂市堂上蜂屋柿産地振興プロジェクト推進委員会」の設立会議が、7月21日に開催された。堂上蜂屋柿振興会、JAめぐみの、美濃加茂市、農林事務所を構成員とした委員会が、全会一致で承認された。

今後、推進委員会の下部組織であるワーキンググループにて、産地戦略・推進方法等について詳細に検討を行っていく。



【設立会議の様子】

### 恵那農林 ■スマート農業 **リモコン草刈り機の実演会及び検討会開催**

恵那市串原地区スマート農業推進協議会（地元生産者組織代表・JA・市・農業普及課）では、本年度国事業を活用し、スマート農業技術を組み入れた営農技術体系づくりの検討を開始した。

7月2日、リモコン草刈り機の実演会および第2回検討会を開催した。実演会には協議会構成メンバーの他、市内営農組織関係者も含め約30名が参加し、メーカーや機器性能の違いによる、操作性や省力・軽労性について見学・体感し、技術の理解を深めた。実演会後の検討会では、協議会活動の進め方等について協議した。今後、リモコン草刈り機や防除用ドローン等による技術検証を行いながら、地域への普及を検討していくこととなった。

農業普及課では、協議会構成員として技術検証を中心に引き続き活動支援を行っていく。



【リモコン草刈り機の実演】

### 飛騨農林 ■ほうれんそう **ラジコン草刈機講習会「スマート農業加速化実証事業」**

6月26日に、国のスマート農業加速化実証プロジェクトにおいて導入した、ラジコン草刈機の安全講習会を関係農家及び関係機関を参集して実施した。

飛騨地域を含む中山間地域は法面の傾斜が大きく、一般的な草刈機で畦畔管理を行う場合、身体的負担が非常に大きいとともに、転倒等の危険も伴う。今回実証を行ったラジコン草刈機は45度までの傾斜で使用、離れた場所からの操作ができるため、傾斜地に立つ必要がなく、作業者の負担軽減が期待される。当日は、傾斜40度程度の濡れた斜面で実際に草刈作業を行ったが、問題なく作業ができた。ほうれんそう経営でもハウス周囲の草刈りは必要であり、草刈の省力化によって生じた時間等を、栽培管理に向けることが期待できる。

農業普及課は事業の進行管理役として実証調査に協力し、スマート農業技術のほうれんそう経営への導入可能性について検証していく。



【使用方法の説明を受ける生産者】